



ジェンダーで読み解く仏教と文化

岩田真美 先生

大阪大谷大学文学部教授 博士(文学)

2025年11月5日 龍谷大学大宮学舎東翼101

真宗学概論A2 鍋島直樹

人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

平等って何だろう・・・自分自身を見つめ直す

一人一人が安心して泣き笑い、生きる居場所のある世界を共に作りたい

SDGsの前文

わたしたちが発表する**17の目標と169のターゲット**は、このアジェンダがどれだけ広く高い目標をかかげているかを表しています。

これらの目標やターゲットは**ミレニアム開発目標(MDGs)**をもとにし、達成できなかった目標をすべて達成することを目指しています。

**すべての人の人権を実現し、ジェンダーの平等、
そして女性や女の子の能力を引き出すことを目指します。**

これらの目標とターゲットは互いにつながり分けられないものであり、持続可能な開発の3つの側面、つまり「**経済**」と「**社会**」と「**環境**」のバランスを保つものです。

➡・SDGs 目標5 「ジェンダー平等を実現しよう」



- **5.1** あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- **5.2** 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- **5.3** 未成年者の結婚、早期結婚、強制的結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- **5.4** 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、**無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。**
- **5.5** 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、**完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。**

➡・SDG s 目標5 「ジェンダー平等を実現しよう」



- 5.6 国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、**性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。**
- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。
- 5.c **ジェンダー平等の促進**、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。



【SDG s 目標5】ジェンダー平等を実現しよう



- 世界経済フォーラムが公表した
「The Global Gender Gap Report 2023」
男女格差の大きさを示す「**ジェンダーギャップ指数**」
（「**経済**」「**政治**」「**教育**」「**健康**」の4つの分野）

2024年の日本の順位は、世界146カ国中118位。

2025年の日本の順位は、世界148カ国中118位。

- ➡ 世界から日本はジェンダー格差が大きい国とみなされている

ジェンダーとは？

- ジェンダーとは「**社会的・文化的に作られた性差**」を指す。
- ジェンダーは歴史や文化、社会の中で形作られてきた「**女らしさ**」や「**男らしさ**」と言い表すこともできる。
(例) 女性： 家事？ 育児？ やさしい？
男性： 仕事？ たくましい？
- LGBTQ+を含む多様な性のあり方を尊重することは大切な課題。



歴史叙述とジェンダー史

「ジェンダー史においては、**公領域**における女性の不在が解かれるべき対象になるのとおなじく、**私領域**における男性の不在も説明の対象になる。

公／私の領域がジェンダーの用語で定義されている以上、ジェンダー史が扱えない領域はないと言っていい。もちろんジェンダー史は、かつて階級史観がそう主張したように、どんな問いでも一刀両断に解くアレクサンダーの剣ではない。

言い換えれば、**どんな領域も**、ジェンダーだけで解くことはできないが、**ジェンダー抜きに論じられることはできなくなったのである。**」
(上野千鶴子『差異の政治学』2015、岩波書店、108頁)

➡ ジェンダーの視点は**知と権力**の構造を読み解くことにもつながる

「戦後においても日本の寺院では世襲制が一般的であると言えます。いまでもお寺の跡継ぎは、長男である場合が多く、「**家**」**制度的な慣習**が残り続けています。こうした伝統や慣習は、女性より男性を優先するというジェンダー問題を生み出すことがあります。（中略）また伝統的な「家」制度では、婚姻を男女間でのみ行うものと考えてしまいがちな点にも注意が必要です。同性婚を含め、**多様な性のあり方**について理解を深めていく機会が必要だと言えます。こうした近代の日本仏教のあり方が**戦前から引きずるジェンダー意識を固定化**する原因になっているのではないのでしょうか。これまでタブー視されがちであったかもしれませんが、**ジェンダー問題は、持続可能な教団や寺院を考えていくときに避けて通れない課題**でもあると思います。」

（岩田真美「特集：仏教界におけるジェンダー問題」

『全仏』通号663、全日本仏教会、2024年10月）

全仏



近世の功中像というものが今ではあまり聞かれないくらい酷いもの
だと感じた。最近では男女平等になりつつあるところ
にいると思うが、仏教でお寺においてはまだ進んでない
気がする。

今日の特別講義で、岩田さんの話を聞いて
仏教界では本来、性差を越えた平等が説かれていたが、
現実には、男性能力の優越が根強いと感じた。
仏の智慧に照らせば、性差を越えた人間尊重の
実践こそが求められていると考えさせられた。

ジェンダーの問題について痛く、歴然と述べて
いただき、勉強になりました。

ジェンダーの問題は気づかないうちに
内面化していることがこわいなと感じた。
みんなが「自分らしく生きていくにはまだまだ
時間がかかると思った。

ジェンダーとは研究と実践という言葉で
言っている。しっくりきた。
他人言ではなく、同じにいるかもしれないし、
その人々について接する機会があったらいいと感じた。

ジェンダーと仏教がこれほどに関連している
ことを知らなかった。また、文化や慣習が
ここまで人の思想に影響することに少し怖さ
を感じた。

今日の講義で今まで知りませんでした。
ジェンダーレスの事を多く知り。
他人事ではなく、自分事として
考える事ができます。 とうとう
⑤井さん

家制度に起因するジェンダー問題は、寺院や教団の持続可能性に
対して、避けては通れないというお話が印象的でした。
また、浄土真宗が、ジェンダーやLGBTQといった人権課題に力を入れ、
「ありのままの自分を受け入れる場」をいかに提供できるかというテーマは、
興味深い。同時に現代社会で向き合っている重要な課題であると
考えました。 そのとおりですね!! 佐伯さん

・大学生になってのジェンダーで考える機会は、
減ってしまっていたことに気が付きました。秋職活動で
して感じたことは、女性管理職の方の割合がまだ
まだ少ないことです。今後、より一層ジェンダー問題が
無くなっていくことを願います。行方不明を祈っています。

ジェンダーについて、私は今まで深く考えたことはありませんでした。
私の中で「男性」「女性」で違うところは、生物学的なものだけであり、
心の中に人間としてのまはさこまで異いように感じています。それぞれ
得意なことあると思っています。しかし、これもジェンダー問題です！
なにかがないところで...という差がとてま割りました。私は字が下手
なので、いつか字が上手に書けるようになります。本当は横書きで勉強
したいのです。これに「女性」に生まれるという事象のたとえを知りました。

やはり歴史を振り返ると女性を軽視
してきた側面は否定できないと思う。
一方で、仏教は本質的には女性を軽視していな
い。一つの正しいのではとも思えた。
特に仏教の本来の教義と理解おこることが大切だと感じた。

ジェンダーを詳しく学んだことはあまりなかったが、どの学問にもジェンダーが
関係しているところがあることを知り、学問はジェンダーによる差が
あると長い歴史があるものだから、ジェンダーは以前から
様々な問題と絡み合っていたのだと思いました。

今回の講義のテーマであるジェンダーについて近年になって
女性の地位が向上しつつありますが、それは旧世界のま
たあり、旧教における女性の立場とはどのようなもの
だったのかと疑問に思っていたので、浄土真宗の坊主像
を通じて女性の立場の周知をすることができました。
性別に囚われないお話を聞きたいと思っています。

今回の講義では、ジェンダーと仏教と浄土真宗の男性僧侶との問題
について知りました。
ジェンダー問題は時に女性に偏る（男性が少なくなっている）か
男性に偏る（女性が少なくなっている）か、歴史を振り返ると女性が多
いという事実がある。
今回の講義で、その事実を知り、改めて、女性もジェンダー平等に
ふさわしいかきいお話を聞きました。

「男らし」「女らし」に好むものに対して
偏見を持たれていない環境はよくない
と感じました。

・浄土真宗の僧侶が女性の地位を上げ、女性の地位を上げ、
仏教が女性の地位を上げ、女性の地位を上げ、
浄土真宗の僧侶が女性の地位を上げ、女性の地位を上げ、

女性天皇が昔いたことがあるのは知っていた。
仏教においても男性が重視されることが
多いと思うので今一度見直して、こうと
思いました。

仏教のミソギといえば、「女性は悟ることできない」といった、
女性を排除するもののイメージが強かったため、『法華経』や『般若心経』などの
女性や男性を論破するものがあること、それによって女性の立場を強調する
文学作品や生じたことが非常に興味深いと感じた。

大阪大学は、富田林にあり、日常よく
横を通るので、都立まで遠かったのではないかと考えた。
管理職などに女性を積極的に登用することは
賛成だが、「あの人は、女性だから管理職にふさわしい」
など言ふも出て、逆効果。この問題は難しい。
高橋さん
さんね!!!

過剰に「多様性」を主張している人たちはどうかと思うが、
性別を理由に不当な扱いを受けている人たちがミソギに
即けたらという気持ちはある。
宗教では仏教、金高や仏教の管理職にふさわしい相模原を色々
あるかもしれない。女性差別はもうどうしようもない。

ジェンダーや LGBTQ+ が叫ばれるようになったから
「男らしさ」や「女らしさ」という言葉がもたらす視座も変わってきた
と感ずる。しかし、僕自身も男らしく生きたいと思う。
こう考えることはよいことなのではなか。

「仏教は平等である」という言葉の真意は、救われ
ることに成り立つのではなく、救われることそのものが
平等であるに成り立つという、平等をどう見出すかの
考え方に磨きを受けた。◎ 片岡さんですわ

「男らしさ」という言葉が私自身に対して圧力のようなものを
与えており、「生きにくさ」を感じて人々がいると思った。
しかし、この行為は、無意識に行っていることがある。
だから、意識して行動することが大切であると考えた。
このことは、人にもものを伝える「伝道書」でも
同じことが言えるのではないかと考えた。

宗教はジェンダーを作っているが、それはジェンダー
という表現があまりに強すぎるのではない。この点、
昔は大きな差があり、その差は大きい。現代はミソギが
ひどくはないため、ジェンダーを言えば言うが、同じミソギを
逆手打つものである。昨日はジェンダーで宗教の
つながりについて議論して下さり、ありがとうございました。
10/15 10/22 10/29 の

仙臺県においてシンダー問題と関係する部分は三十三段
の變成男子が主である。近頃日本と連動するため何故かこのト
クには少ないがセムバランスを取ることが重要かもしれない。



普段の講義ではあまり触れない話題がある
興味深かった「シンダー」を意識しようと
思った。

持続可能な社会を築いていくには

1-12「シンダー」問題、1-13「シンダー」問題

=4から課題1-12を思い出して。

それが大切!!

仙臺とシンダーの関係や問題は思っていたよりも興味深かった
で、最近では男性や女性、押し進められていく社会、それでは男性が
問題や数多く残っていると思う。他人事は思わない、自分でやること
からやるのを改め、進められる。

シンダー that's right!!



日頃、母の坊主という立場の大家に恵まれること
がゆえに、非常に興味深かった。

教理史の講義で、*女人往生、變成男子
の内容を学んでいるので、今回の岩田先生の
特別講義は非常に有意義な時間でした。

シンダーと女性問題というのは、解明されていないが、
女性問題があるという事は分かった。それによって日本の伝統の
ようなものを取り入れるようになった。シンダーという平等の先
に持続可能な社会のために必要と分かった。それによって
シンダーが持つ著しい機会にたつ。



200 能登人

今は「シンダー」という言葉が、^{ある}通り、肌や

メーも自由に、な、てきているが、昔は男は男らし、女は
女らしといった性別が高かった。今は男は男らしく、女は女らしく
生きることが、一番大切なので、さらにシンダー問題
も理解される世の中であってほしいと感じました。

先輩が「ジェンダー」関連の卒論を書いていて、
で興味を持って話が聞きました!

「ジェンダー」という語が解いていくのか、卒論に向けてそういう
視点もあるのか、と思うことがあったので、これも聞いてみた。

仏教が日本に伝わったことで男女の立ち場が
逆転した文学作品がてきたく講義の中で話され
ていたが、これは現代でも続いていて朝ドラが
その一つだと思っています。社会で活躍する女性が主人公
であります。他にも現代で仏教に影響されたものがないか
気になりました。

今回の講義をうけて、現代のジェンダー
問題の解決に向けていく方法として
男女平等というものがあるか、この問題
の解決はしては複雑で自分自身と
しっかり考える必要があると思いました。

宗教とジェンダーの関わりを学ぶ中で、日本の山に
女人禁制の文化があるという事を知り、とても衝撃的
でした。信仰の土壌が性別によって制限されてきた
事にすごくおどろきました。それから、宗教がより
平等な考えを広める力になってほしいと思いました。

肉食妻帯の崩壊、日本独特の仏教観が政府に認められ
ない、宗教が王様だったことを初めて知ったため、おどろいた。また、そ
うして、身元として格付けした「僧侶」が職業の一種として見られる
という話も興味深かった。今回の特別講義も面白く、音もよくあ
った。仏教における男女差別にも関係する話の差を細かく見て
あげることができ、自分自身も考える機会になった。伝統的な宗教も時代
に合わせて変化していく必要性を感じた。

ジェンダーについて詳しく学ぶ機会がなかったが、今日
の講義を通じて他人への理解が深まった。思っていた
日本にも多くのジェンダーの方がいるので、批判するの
ではなく、優しく受け止められたいなと思います。

女性の社会進出に関しては近年の男女平等社会が影響しているた
めと考えられ、今後さらに女性が進出する割合は増えていく
だろう。しかし幹部職の男女比率は女性のほうが少なくなるという。国
人間的に劣っている。その話はよく性格的に向いていないという事もある。
多くの場合、男性は論理的な思考と対して女性は感情的な思考であることが特徴として
存在し、実際に体感することになる。幹部職は合理的な判断を求められる
論理的な思考の方が適している。どうして多くの人に男女の性格差があるのか
という話は、ジェンダー、もし男女比率50:50の会社があったら幹部職は女性になる。

今日の講義を通して、印象に残ったのは、
「ジェンダーは時代によって変化していく概念である」という点です。
これまで男性らしさ、女性らしさといった考え方は固定的なもの
だと捉えていたが、社会の価値観や文化の変化に
応じて、形を変えていくものだと学びました。

ジェンダーは自分の身近で感じることは
少ないかもしれませんが、先生のお話を聞いて
自分の身近にも色々なジェンダー問題があるんだな
と気付きました。

本日の特別講演で私は改めてジェンダー問題について
考えを持ちました。閉鎖的な職業であり傷傷と云ふ事は以前にも
男と女の職業意識が強いままではあるのかなと感じ、新なり風が
そのような業界に吹けばいいなと感じました。

ジェンダー史を学問にすると言わなくても、私の中では
すでに新しい考え方をたためた。面白い雑誌を読
みましたがよく家で「坊主」という言葉は聞いているの
ですが、初めて坊主の意味を知り、歴史を知らな
い強くなりました。あと昔は女子は「バブ」に
て、私が学生の時代は「バブ」に
て、バブを着ることを反対にしていた昔の女性達には
感謝しています。

宗教には人々の考え方や行動方針の形成に大きな力を持つ
一方で近世や近代は男女平等でなかったことから浄土真宗も時代
の風潮を受けて女性の否定的なイメージを形成して男女差別の流れがあ
ったことは残念なと思いました。宗教に人々の考え方や行動方針の形成に大
きな力を持っているのなら、男女平等を当時の時代において強く主張でき
なかったのかと疑問に思いました。ジェンダーと宗教は無関係であること
から、私自身もジェンダーの内容に関して宗教の立場から注目していきな
いと思いは。

仏教の世界で防衛差別のような
差別が起っていたことは、真剣
に向き合うべきことだと考えました。

米倉 100 防衛バサ性だからという理由で
差別されていたという事実を知りました。
すべて平等という考えの仏教であるからこそ
考えるべき問題であると思いました。

「僧と坊主」というテーマについて、興味深い話を
聞くことができました。

宗教的有教であるばかりに仏教に異な差が論かれてい
ることは、これからの社会を生きていく上で避けて
はたかた問題であり、宗教という価値観を形成
するうえで大きな影響力を持つ、というものの重
ともいえるのではないかと。

正通私はジェンダーアレルギーである。フェミニストや左翼活動家や共産主義者が拳を突き上げて「ジェンダー平等」などの外転性を一方向的に押しつけてくるものがあるから。岩田先生の話を聞いて、非常に丁寧でやさしい印象のため、静かに冷静にジェンダーについて考えることができた。

14歳でも女性が差別されてきたことを改めて認識した。どこまで男女平等を進めていけばいいかという点に共感できた。

お盆の話として外から聞いてきた、目黒区の話でも、母親の子供への愛情が飢餓鬼道に陥る原因と述べていて、今日聞いた仏教のジェンダー観が反映されているように感じました。

親鸞聖人の言葉が、どの部分にジェンダーの問題と向き合っているのか、
お盆に気づきました。

昨今「ジェンダー」という言葉は元来持てた意味から、差別に対する言葉、「差別に対抗するための権利を成す権利」に感じられ、若くは教養的な人々にとっても意識的なものになりました。私もあなたのおかげで気づきました。

私は2年前、基礎演で岩田先生に教えていた。だいていたので、久しぶりにお会いできて嬉しかった。ジェンダー問題についても、今の日本は改善されてきているが、まだ女性差別が残っていると思う。なので、さらに改善するために、私たちの世代でもより行動しなければいけないと思う。

今日の講義では今、自分は男女平等に肯定的な考えをもっているけれど昔は、自分も否定的な考え方をもちたのかなと思。た。話し合いを大事にこれからも考えていきたいと思った。

どこまで男女平等を進めていくのか私にも考えさせられた。

岩田さん、非常に有意義な講義
ありがとうございました。

ジェンダーギャップ指数のランキングが低いのが意外だった。ランキング上位の国々とういって価値観の違いがあるのが疑問と思えた。

真実というものに対する女性たちの視覚もリアリティを欠いていた。自分の視野も広がったような気がした。

最近ではジェンダー問題に対する社会的な取り組みが多くなってきて、それによって社会の関心が高くなってきているので、声を上げていくべきではないか。

とてもよかったです。

貴重な気づきを得られた。特別な時間でした。ありがとうございます。

男女平等になれる世界がいつか来てほしいなと思いました。宗教とも話合いたいと思っています。

ジェンダー問題について話したい。話を聞きたい。

こちらの大学の非常勤講師をしております。中占文学が専門です。大変興味深く拝読しました。どうもありがとうございます。

「お寺の跡地には長男が居る場合が多く、家別便的な慣習が
残っている」ということが私の家でも寺で男の子が居ないの？
婿養子ももうおに言われていて人事とは思えないけれど、
このことがジーンター問題に絡むことはあるとかならないかと
とても勉強になる時間でした。

ジーンター問題は近年で始まったことではなく
大昔からの問題もあり、仏教にも関わっていることを
初めて学び、意外性が印象に残った。

今回のジーンター発表で、余りの
知らない分野での発表であったため、興味
深められようかとばかり、考えていたことで興味
を持ち、やはり、新しいことにチャレンジして学ぶことで
興味を持つこと、未知への怖れを克服するようになった。

ジーンター格差問題が音かき残る
仏教への対策を聞いて、時代に順応して
いこうとするところも本来は、そうではないところ
も94にあるということも分かった。

社会でも宗教でも女性の地位は低いと思います。

しかし男女平等を唱えようとする、必ず女性だけがある女性専用
が、生理休暇、映画館や飲食店にあるレディースサービス、
これを撤回しないといけないのではないかと。それを残したまま
男女平等な世の中になると女尊男卑、目立たない。
女の私的には歓迎だが、
男性にも優しい社会を目指したい

今回の講義ではジーンターで読み解く仏教と文化に
ついて若田真実さんを講師として学びました。
現代社会においてもまだ人と取り入れられている女性の
要職への配置やLGBTQへの理解を仏教界にも取り込ん
でいこうのは、講義中にもおっしゃっていたような
持続可能な教団作りに繋がると感じました。

自分は富市総理が誕生してからよく女性
の女性のことがよく見受け、もちろん男性の感
覚がある問題もあると思いますが、必ず女性
が互いに女性と男性の両方から見ていける
ことができればいい。

最後のお話にあり、富市総理と称するが、
話し合いをするという話と聞くと、私は30
でもそれでは若くはと想像がわいて、もしも
持ち続けることが必要にはなると感じました。

ジェンダー問題は、仏教のみならず世界的な問題である。その上で仏教的な視点をもって解決に向かおうとする意識は、とても意義があると感じた。

1000年以上維持されてきた教義や規則を急激に変えるのは難しいと思われるが、仏教が平等であり続けるためには緩やかに在り方を変えていく必要があると思った。

日本が146の118位だったことにおどろいた。
街中とか、女性の活躍とかよく聞くけど、
本音の総理で、社会の風気が変わるまいなと思う。
近年のお金のやり方も変わっていくかもしれない。
~~女性~~女性の地位はとて素晴らしいので、増えていくとうれしい。

ジェンダー問題を考える時、平等とは何か
小さい頃から分っていたものが分からなくなっ
てしまっていた。しかし、違いを認識し、受けとめ、
という姿勢は、大事なところだと思った。
これから考えていきたいです。

学生ではないのに受講させていたこと
ありがとうございました！
久しぶりの講義も、興味ある内容だったので
とても楽しかったです。講義で紹介した本を
読んでみたいと思います！
はい！！

ジェンダーに関して、男尊女卑という言葉をよく耳にするが、戦
間における平等の宗教は明確にならないうちに、新しい問題にも
対応して、老田先生も講義中に仰っていたが、ジェンダーとは
研究と実践という点にその通りだと感じ、この2つの伝
道活動の中で、平等な社会になると思いました。

仏教が社会の中でジェンダーを形づくり、
男女の在り方に影響を与えたこととあり、
平等の視点を見直すことができた。

私は特別講義を聞いて下で、おもしろかったです。
ジェンダーに関してこんなに詳しく学ぶこと
は貴重だと思った。またジェンダーと宗教の関わり
についても実際に「女と禁制」の日本の霊山が
存在しているなどと思いました。

木印国男の例も出ていましたが、仏教が日本の文化に与えての影響は大きいと感じました。民俗学とずいぶん知っていたなとも思いました。

女人禁制は、文化を大事にしつつ女性に優しくしてあげたいと思ってる。

『山崎山崎の女子禁制』の歴史について、はじめて知り、宗教と差別の関係について改めて考えることができた。

当たり前のように考えるようになっていた「ジェンダー平等」という問題ですが、そもそも「ジェンダー平等」が何を指すところか、どういったところなのか、という「ジェンダー平等」の捉え直しということも大切だと感じました。

ジェンダーの問題を考えた上で、仏教を父に伝えて考えたことが一度もなかったのもとても新鮮で、たい機会であったと感じた。

先生が言われた通り、^{三尾さんやあゆみ!! あゆみさん!!}「ジェンダー」のことを考える時に、男性の立ち場がなくなることまで、考えられていなかったのも、また別の機会で「ジェンダー」のことを考える時には、男性のことも考えなければならなかったと思った。 (笑)

山崎山崎の例も出ていましたが、仏教が日本の文化に与えての影響は大きいと感じました。民俗学とずいぶん知っていたなとも思いました。

山崎山崎の例も出ていましたが、仏教が日本の文化に与えての影響は大きいと感じました。民俗学とずいぶん知っていたなとも思いました。

山崎山崎の例も出ていましたが、仏教が日本の文化に与えての影響は大きいと感じました。民俗学とずいぶん知っていたなとも思いました。

美容の専門的な分野以外で情報を受けやすさや機会が
少ないので、良い年を過した。27。

特に、年齢の近い人の会話を聞くと、自分のもの
ジェンダー観と似て早変わりとなりで楽しかった。

ジェンダーについて、仏教、美容を手伝うなかろ
うと良い機会であった。特別では40
人ほど能力を測るというものが大切なのだと
思った。

1889年の大日本-で天皇が男系男性のみとなったと
あるが、逆に女性天皇が江戸にもいたと書いている
ので、江戸の方がジェンダーというものはゆるかったと
考えたりした。

1872の妻帯がXからのになったことで、取り上げられ
たが、親鸞が妻はよな〜?とも思った。

ジェンダー平等、性差に対する議論はここ
数年で大きく注目を集めているように思える。

このような話題になると女性の問題が多々ある。男性差別
や平等に対する議論が少しいという点に疑問を感じました。

ジェンダー問題について考えるには3つの
視座で考える必要があると分かりました。
ジェンダー問題は様々な学問から考えることが
できる難しい課題と認識しました。

僧侶は身がこははく職業というのには現代から考える
と当たり前のことである。逆の時代を考えたことがなかった。

また家父長制により寺と「家」が結びついているのは

わざわざ言わなくても分かるような内容なのがこのタイプなの
は知っていました。

近代仏教とジェンダー意識について

100

肉食妻帯にせよ政府の許可が必要なりか

ともいわれていますが、僧侶の「身命」から「職業」
に変わるといふ社会的な要素が関係したのだと分かり
ました。

● どうもありがとうございました(^▽^)/

